

薄 葉 始 (少年補導協会員)

内 藤 重 治 (" ")

小 平 正 一 (子供育成会会長)

真 船 貞 夫 (矢中PTA会長)

水 戸 政 治 (青少年指導協力員)

塩 田 嘉代治 (防犯連絡所)

▽監 事 武 藤 祐 (東邦銀行支店長)

岩 谷 義 夫 (白河農協事業所長)

▽幹 事 吉 田 又 市 (矢吹派出所主任)

加 藤 政 義 (住民課長)

なお事務局は役場住民課にありますので、入会を希望される方は申し込んでください。この会の趣旨に賛同される方なら誰でも入会できます。

〔昭49 8・1「広報やぶき」抜粋〕

3 保 健

(1) 保 健

四八〇〔昭和二〇年矢吹町国民健康保険組合決算〕

(表紙)

昭和二十年度決算書

矢吹町国民健康保険組合

議案第二号

昭和二十年度矢吹町国民健康保険組合決算書

収 入

一金二万五千三百七十八円六十八銭也 収入決算高

支 出

一金二万二千四百五十四円五十三銭也 支出決算高

収入支出差引残

残金二千九百二十四円十五銭也

昭和二十一年六月二十九日提出

矢吹町国民健康保険組合理事長 大 木 代 吉

△印八減

824

科 目・款 項	説 明 種 目	決 算 額	予 算 額	比 較	附 記
一、事 務 所 費	一、報 酬	六、五〇・三	五、五〇	一、〇〇・三	理事長以下役員報酬
		一〇・〇〇	一〇△	一〇・〇〇	
		一〇・〇〇	一〇△	一〇・〇〇	
二、俸 給 及 諸 給	一、報 酬	五、〇五・三	四、一〇〇	九六・五	常務理事以下職員月給三名分 七・一ヨリ一、壹円五銭流用 旅費、賞与手当等
	二、諸 給	三、九〇・〇〇	二、四〇△	一七〇・〇〇	
		二、七五・五	一、六〇〇	一、一五・五	
三、所 費	一、需 用	一、三二四・七	一、三三	四四・七	二・一ヨリ三円六銭流用 二・一ヨリ三円六銭流用
	二、雜 費	八五・五	八〇〇	三・八五	
		四八・六	四〇〇	二・八六	
二、組 合 會 費		九五・〇〇	一〇〇△	一五・〇〇	
一、組 合 會 費		九五・〇〇	一〇〇△	一五・〇〇	

支出	收入合計
七、雑収 一、過年度収入	一、幹施薬品受入金 二、共済施設等受入金 三、雑入
	一、雑入
	二、過年度保険料
	三、過年度一部負担金
	四、雑入
	五、共済施設等受入金
	六、雑入
	七、前年度未納保険料
	八、被保険者へノ幹施薬品受入金
	九、農業者会貯金利子、振替貯金利子其ノ他
	十、△印ハ減

昭和二十年度矢吹町国民健康保険組合收入支出

殘金処分案

一収支殘金 二千九百二十四圓十五錢也

処
分

一法定準備金 五百二十二圓二十四錢也

(本年度保険給付費、百分ノ五)

一翌年度繰越金 二千四百一円九十一銭也

右昭和二十一年六月二十九日 組合會議ニ於テ議決ス

矢吹町国民健康保険組合 理事長 大木代吉

昭和二十一年六月二十九日提出

827

矢吹町国民健康保険組合 理事長 大木代吉

議案第四号

一時借入金

昭和二十一年度矢吹町国民健康保険組合収入支出予算書

一、借入金額 金五千円也

収入

二、利率 百円ニ付日歩二銭五厘以内

一金七万五千八百六十円也 収入予算高

三、借入先 東邦銀行又ハ農業会

支出

四、返済期日 昭和二十一年十二月二十日

一金七万五千八百六十円也 支出予算高

〔中町 渡辺芳正家文書〕

収入支出差引残金ナシ

昭和二十一年四月 日提出

四八一〔昭和二十二年矢吹町国民健康保険組合予算〕

福島県西白河郡矢吹町国民健康保険組合

（表紙）

理事長 仲西三良

昭和二十一年度収入支出予算書

矢吹町国民健康保険組合

収入

△印ハ減

科目	説明種目	本年度 予算額	前年度 予算額	比較	附記
一、国民健康保険収入		六四、六〇〇	四一、三六五	二三、〇三五	
一、保険料	一、保険料	四一、六九	三二、六三四	一〇、〇五五	組合員一人当平均四四円〇銭
二、一部負担金		三、六六	三、六三四	二、〇五五	
三、過怠金	一、一部負担金	三、六六	九、七六	二、九六〇	療養給付費ノ五割

収入合計	二、雑入	七、雑収入 一、過年度収入	六、幹旋藥品受入金 一、幹旋藥品受入金	五、財産収入 一、準備金利子	四、寄附金 一、寄附金	三、繰越金 一、前年度繰越金	二、補助金		
							一、国庫補助金	二、県補助金	三、町補助金
一、雑入	三、過年度雑収入	一、過年度保険料	一、幹旋藥品受入金	一、準備金利子	一、寄附金	一、前年度歳計剰余繰越金	一、過 息 金	一、 国 庫 補 助 金	二、 県 補 助 金
七、八、六〇〇	一〇〇	一〇〇	六、五	三〇〇	一〇〇	一、〇〇〇	七、三、三	七、三、三	七、三、三
五、一、五二六	一〇〇	一〇〇	六、五	一〇〇	一〇〇	五〇〇	六、七、四〇〇	六、七、四〇〇	六、七、四〇〇
二四、三三三	一〇〇	△	一、五	三〇〇	一〇〇	五〇〇	五、二	五、二	五、二
支払余剰金利子		前年度未納保険料	被保険者へノ幹旋藥品受入金	法定準備金ノ利子		前年度繰越金	被保険者一人当ニ三錢五、四四人分		

支出

△印ハ減

科 目	說明 種 目	予算額	前年度 予算額	比 較	附 記
一、事務所費	一、報 酬	八、二六	五、五〇	二、五六	
二、俸給及諸給	一、俸 給	一〇	一〇	—	理事長以下役員報酬
	二、緒 給	六〇三二	四、一〇〇	一、九三二	常務理事ハ職員俸給三名分
三、所 費	一、需 用 費	二五八〇	二、四〇〇	一、一八〇	旅費一、〇〇〇円、手当一、〇〇〇円、賞与四五五円
	二、雜 費	三、四五一	一、六四〇	一、八一一	
二、組合會費	一、需 用 費	一、九三七	一、三〇〇	六三七	備品費三〇〇円、消耗品費四七〇円、印刷費三〇〇円、通信運搬費一〇〇円
一、組合會費	二、雜 費	一、三七	八〇〇	五七	備品費三〇〇円、消耗品費四七〇円、印刷費三〇〇円、電燈費五〇円、電話費一〇〇円、借家料一〇〇円、雜費三〇〇円
三、保險給付金	一、需 用 費	六〇〇	四〇〇	一五〇	
一、療養給付金	二、雜 費	八〇〇	一〇〇	七〇〇	備品費三〇〇円、消耗品費一五〇円、印刷費一〇〇円、通信費五〇円
二、療 養 費	一、組 合 負 担 金	五〇〇	三三	四六五	組合會議員費用弁償殘一〇〇円、雜費一〇〇円
三、助 産 諸 費	一、助 産 給 付 費	三〇〇	一五	二八五	療養給付費ノ五割
	二、助 産 給 付 費	四、四二〇	三、三〇〇	一、一二〇	同
	一、助 産 給 付 費	四、四二〇	三、三〇〇	一、一二〇	被保險者一人当(四)錢五、四回名分
	一、助 産 給 付 費	四、四二〇	三、三〇〇	一、一二〇	出產一件当三〇円、一七名分
	一、助 産 給 付 費	四、四二〇	三、三〇〇	一、一二〇	同 一六名分

四、雑費	三、過年度支出	二、負擔金	六、雑支 一、一時借入金利子	五、積立 一、準備金繰入金	七、幹旋藥品費	六、需用改善費	五、榮養改善費	四、母性及乳幼児保護費	三、健康診断費	二、結核予防費	一、傷病予防費	二、諸給	一、俸給	四、保險施設費 一、俸給及諸給	四、哺育費 一、哺育手当金
三、過年度雑支出	一、過年度保險給付費 二、過年度保健施設費	一、国保組合連合会負担金	一、一時借入金利子	一、準備金繰入	七、幹旋藥品費	六、需用改善費	五、榮養改善費	四、母性及乳幼児保護費	三、健康診断費	二、結核予防費	一、傷病予防費	二、諸給	一、俸給	一、俸給及諸給	一、哺育手当金
一、〇〇、 二〇	九二 一〇	九三 一〇	五〇 五〇	三三 三〇	六八 三〇	五五 一〇	一五 一〇	四〇 一〇	二〇 一〇	五〇 九〇	八二〇 七〇	三、三二 三、三二	一、八八 九一	一、三〇 一、三〇	一、六三〇 一、六三〇
七四 一〇	一〇 一〇	五〇〇 三〇	五〇 五〇	一〇 一〇	五〇 一〇	五三 一〇	一〇 一〇	四〇 一〇	一〇〇 一〇〇	九〇〇 九〇〇	七〇 七〇	三、三二 三、三二	九一 九一	一、三〇 一、三〇	一、九〇〇 一、九〇〇
七	九二 九二	三三〇 三三〇	四四 四四	一、九三 一、九三	一八 一八	一九 一九	一 一	一 一	一〇〇 一〇〇	四〇〇 四〇〇	七〇 七〇	三 三	九七 九七	九四 九四	三〇 三〇
		一般負担金五〇円、診療報酬診査会費三〇〇円		準備金利子繰入	被保険者へ幹旋藥品費	消毒藥品器具及衛生材料等購入費	栄養改善普及奨励費	検査費三〇円、保護費一〇〇円、検査用紙五円	診断費	ツ反応検査及診断費	腸チブス三〇円、天然痘一〇〇円、赤痢三〇円、ヂ フテリア一五円	保健婦月給二名分 旅費六〇円、手当九三元、賞与三〇円		出産一件当一〇円、一三名分	

四、八六〇円〇〇＝ 三〇円〇〇× 五、四四人× 100分の三				哺育上ノ手当年額＝哺育手当一×被保険者ノ数×一年間出生率 件当給付費 一、八〇〇円〇〇＝100円× 五、四四人× 100分の三			
保險給付費年額＝療養給付ノ療養費＋助産給付ノ費用 費年額 五、三二〇円〇〇＝四、三二〇円〇〇＋一、〇〇〇円〇〇				保險料所要年額＝（保險給付費年額＋保險施設費ノ事務費ノ予備費） 四、三六九円〇〇＝（五、三二〇円〇〇＋一、〇〇〇円〇〇） 一（一部負担金＋国庫補助金＋県町費補助金） 一（三、六六〇円〇〇＋七、三三〇円〇〇） 二、七〇〇円			
組合員一人当保險料年額＝保險料所要年額÷組合員数 三〇円五〇＝四、三六九円〇〇÷144人				被保險者一人当保險料年額＝保險料所要年額÷被保險者数 七円六六＝四、三六九円〇〇÷574人			
組合員数及被保險者ノ数ハ昭和二十一年二月末日現在数ナリ 昭和二十一年度矢吹町国民健康保險組合保健施設設計画書							
三・四	三・五	〃	〃	年月	施設事項	実施対象	同上
妊婦及乳幼児保護検診	天然痘予防接種	腸チブス予防注射	寄生虫予防	乳幼児	全町民	毎月一回行ハ妊婦等ハ適時行フ	各町内会隣組毎ニ行フ
四〇〇人	五、五〇〇	五、五〇〇	三、〇〇〇	人	摘	要	概算費
四〇〇円	二〇〇	二七〇	一五〇	円			

〃	三・六	〃	〃	〃	〃	〃	〃	三・七	〃	〃	〃	三
健康診断	Bツ反応検査 C G接種	農繁期共同 炊	榮養講習会	井戸調査及 消毒	下水消毒	赤痢予防 注射	疥癬予防及 治療指導	農繁期共同 炊	ダフテリア 予防注射	健康診断	百日咳予防 注射	寄生虫予防
全町民	全町民	全町民	全町民	全町	〃	学童及 幼児	復員者	七歳以下 幼児	七歳以下 幼児	七歳以下 幼児	七歳以下 幼児	学童以下 幼児
五、三〇〇	五、三〇〇	一、五〇〇	一、五〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	一、五〇〇	一、五〇〇	一、五〇〇	一、五〇〇	三、〇〇〇
復員軍人軍属疎開 罹災者等町役場ト 連絡ノ上行フ	患者及婦郷者等ヨ リ始メ遂時全町ニ 及ボス	農業会ノ協力保健 □ヲシテ指導セシ ム	関係方面ヨリ指導 者ニ□キ講習会ヲ 開ク	保健委員ト連絡ノ 梅ニ於ケル悪水ノ 消毒ヲナス	保健委員ト連絡夏 季ニ於テハ適時清 掃ヲ行ヒ伝染病予 防ノ一助タラシム	学童ハ学校ニ於テ 他ハ各町内毎ニ行 フ	町役場ト連絡ノ上 保健婦シテ行フ	農繁期共同 炊	復員者ヲ町役場ト 連絡ノ上行フ	各町内毎ニ行フ	各町内毎ニ行フ	駆虫剤ヲ配布服用 セシム
100	500	1	150	50	50	200	200	150	200	150	150	150

〔中町 渡辺芳正家文書〕

〔解説〕 矢吹町国民健康保険組合は、昭和一六・七年ころ任意組合として設立された。国から一定の補助を受けて出発したものの、広く住民にその趣旨が理解されず反対者や保険料の滞納などがあり容易でなかった。その後戦争が烈しくなり有名無実のようになり実際活動は一時休止した。

戦後、再出発を計り事務所を矢吹町西側、石井宅（現在中町橋本青果店）に借り、趣旨の普及宣伝と会員の加入促進、保険料会計事務と多忙を極め、その上保健婦による会員の健康管理までやった。規約により理事長は町長が推戴されていたが、理事・監事は組合員の中から選出された。この組合は現行制度ができるまで任意団体として続く。（戦後再建に努力された、中町専任書記渡辺芳正氏談）

四八二〔昭和二十一年矢吹町隔離病舎廃止〕

議案第二十六号

矢吹町隔離病舎廃止の件

明治三十七年八月より設置しありたる隔離病舎は左の理由により之を廃止する

記

本町は曩に公立岩瀬病院の組合町村中に加し町内に発生せし伝染病患者は直に同病院の完備せる伝染病室に入院加療しつつある為町の隔離病舎は事実上永年に渉り使用せず屋根をはじめ建物の内外著しく腐朽し隔離病舎の価置を失し現在（マ）は勿論将来とも使用するもの無い

昭和二十一年七月二十五日提出

矢吹町長 大木代吉

〔町有 昭21「矢吹町会議録」抜粋〕

四八三〔昭和二十一年矢吹町隔離病舎廃止に伴う伝染病発生時の措置〕

議案第二十八号

矢吹町隔離病舎廃止に伴ふ伝染病発生時の措置
に関する件

本町内に伝染病発生したる時は公立岩瀬病院隔離病舎を利用するは勿論隔離病舎買受人へ左記条件を以て払下致すべきに付随時入院加療可能にして患者に対し毫も不都合なきを期するものとす

記

隔離病舎買受人 矢吹町大字矢吹字西宅地九番地

医師 会田宗太郎

伝染病患者の収容上適當なる設備をする

病室は現在の隔離病舎と同室数のものを建設する

矢吹町に伝染病患者発生し隔離の必要ありたる時は優先的に収容する

昭和二十一年七月二十五日提出

矢吹町長 大木代吉

〔町有 昭21「矢吹町会議録」抜粋〕

四八四〔昭和二十九年伝染病隔離病舎建築執行〕

議案第二十号

矢吹伝染病隔離病舎建築の件

右隔離病舎次の通り建築するものとする

昭和二十九年三月十二日提出

矢吹町長 野 木 忠 房

一、建築を必要とする理由

1 昭和二十一年六月県の許可するにより町営の伝染病隔離病

舎を廃止しこの隔離病舎建物を町開業医に売却したがその条

件として町内に患者発生し隔離の必要ある場合は優先収容可

能となって居るが移築された建物は現在特殊病院にて入院者

が希望しない公立岩瀬病院や白河厚生病院の利用も遠隔の地

にて不便である。

2 最近交通の頻繁に伴い町内に伝染病保菌者が今後多数とな

る。

3 矢吹原開拓事業の完成後は上流からの汚水等により爆発的

に多数の患者発生の場合速かなる収容困難である。

以上の理由により不慮の災害発生に際し最少限度に防止せん

とする。

二、名称及構造

矢吹伝染病隔離病舎 木造平屋建二百坪

健康部（医務室 調剤室 宿直員室 小使室 賄室 浴場 便

所 物置）

病室部（診察所 病室 看護人室 食堂 消毒所 屍室 浴場

便所）

三、工事費及財源

金六百万円

内

県補助金三百万円

大蔵省預金部借入金三百万円

四、工事施行の時期

昭和二十九年年度

五、工事施行の方法

競争入札又は随意契約

但し県衛生部の指揮による

附帯決議

起債及県補助の見通し確実の場合に限り着工する

以 上

〔町有 昭29「矢吹町会議録」抜粋〕

四八五〔昭和四十六年公立岩瀬病院組合脱退〕

議案第二号

公立岩瀬病院組合からの脱退について

地方自治法（昭和二十二年法律第六十七号）第二八六条第一項の規定により、昭和四十六年四月一日から公立岩瀬病院組合を脱退するものとする

昭和四十六年三月十二日提出

矢吹町長 大木 代吉

〔町有 昭46「矢吹町会議録」抜粋〕

四八六〔矢吹町の医療機関〕

会 田 病 院 院長 会 田 宗太郎

矢吹町大字矢吹字本町二一六番地

内科・呼吸器科・外科・整形外科・産婦人科・放射線科

病床一六九（結核五二、一般一一七）

財団法人福島県赤十字血液センター会田病院出張所

内科

伊 藤 医 院 院長 伊 藤 一 清

矢吹町大字中畑字中畑二〇五番地

内科・産婦人科

病床二

延 寿 堂 院長 野 木 忠 房

矢吹町大字矢吹字中町

休止

小 針 医 院 院長 小 針 俊 一

矢吹町大字矢吹字曙町八六番地

内科・小児科・放射線科

三 瓶 医 院 院長 三 瓶 学

矢吹町大字矢吹字中町四〇八番地

外科・皮膚科・泌尿器科・整形外科

病床一四

半 沢 医 院 院長 半 沢 松 雄

矢吹町大字矢吹字曙町六六番地

小児科・産婦人科

病床一一

松 崎 医 院 院長 松 崎 忠

矢吹町大字矢吹字中町三一一番地

内科・小児科

西 白 河 病 院 院長 鈴 木 克 己

矢吹町大字大和久字井戸尻四四五番地

精神科・神経科・内科

病床一五〇（精神科）

山田医院 院長 山田 英太郎

内科・小児科・眼科・放射線科

福島県立矢吹病院

矢吹町大字矢吹字滝八幡一〇〇番地

内科・精神科・神経科・歯科

病床三〇八（精神二八八、伝染病二〇）

町立三神診療所 所長 国馬 正三

矢吹町大字三城目字奉行塚一〇五番地

内科

福島ケミコン診療所（従業員のみ）

内科

岩谷歯科医院 院長 岩谷 和夫

矢吹町大字矢吹字中町

高久歯科医院 院長 高久 勇

矢吹町大字矢吹字中町四四〇番地

酒井歯科医院 院長 酒井 学

矢吹町大字矢吹字中町三二五番地

吉井歯科医院 院長 吉井 欣吾

矢吹町大字矢吹字曙町一九五番地

渡辺歯科医院 院長 渡辺 嘉吉

矢吹町大字矢吹字中町三九八番地

斎藤家畜医院 院長 斎藤 智徳

矢吹町大字矢吹字小松二八五番地

佐藤家畜医院 院長 佐藤 政信

矢吹町大字矢吹字曙町二六八番地

円谷家畜医院 院長 円谷 照海

矢吹町大字明神字明神中一一三番地

橋本家畜医院 院長 橋本 忠善

矢吹町大字中畑新田字八幡町五六番地

迎家畜医院 院長 迎 源清

矢吹町大字中畑新田字新町一六七番地

〔白河保健所・矢吹町役場資料〕

四八七 〔福島県立矢吹病院沿革〕

沿革

昭和三年二月一日 県立矢吹精神病院（病床一〇〇床）として開設

昭和三年三月三日 生活保護法による医療機関に指定

昭和三年八月四日 生活保護法、健康保険法等による完全看護、

完全給食実施承認

昭和三年二月五日 結核予防法による医療機関に指定

昭和三年六月八日 病棟（三床）、管理診療棟増築

昭和三年 八月二日 矢吹町ほか一ヶ村一部事務組合立隔離病舎

(三床) 併設

昭和七年 四月二日 病棟(三床) 増築

昭和六年 一月一日 矢吹病院と改称

昭和六年 五月九日 病棟(三床) 増築

昭和六年 九月一日 生活保護法、健康保険法等による基準寝具実

施承認

昭和四年 三月三日 病棟(三床) 増築

昭和四年 三月三日 病棟(三床) 増築

昭和四年 五月九日 看護婦宿舎(四人収容) 新築

昭和四年 六月九日 生活療養棟新築

現在病床数 三六床、診療報酬点数表甲表採用

(昭和 四月)

〔福島県立矢吹病院「病院要覧」抜粋〕

四八八〔昭和四十八年ガン追放宣言の町〕

決議案第二五号

ガン追放宣言の町について

ガン追放宣言の町として地方自治法第一一二条の規定によりここに提案する

昭和四十八年三月二十日提出

提出者 矢吹町議会議員 近藤 毅 一

賛成者 矢吹町議会議員 星 信之助

同 根本 政治

同 関根 正吾

同 渡辺 誠

決議

ガン追放宣言の町

医学の驚異的な進歩した今日不幸にしてガンによる死亡率の高い事は洵に寒心に慄えない。ガン追放の要訣は、早期発見、早期治療にあるといわれている。本町は全国にさきがけ昭和四十七年より町費をもって成人病並びにガン検診を無料で実施し効果を挙げつつあるをもって益々検診の徹底充実を図りガンの追放を期したい。

依つて第一〇五回定例町議会に当り、ここにガン追放宣言の町とする。

右決議する。

〔町有 昭48「矢吹町会議録」抜粋〕

(2) 衛 生

四八九〔昭和三十九年上水道事業施行〕

矢吹町上水道事業施行について

矢吹町上水道事業を昭和四十年年度より三ヶ年継続として、下記により施行するものとする。

記

一、工事名称 矢吹町上水道布設工事

二、給水区域 大字矢吹 大字中畑新田 大字大和久の一部

三、工事総額 金一〇五、〇〇〇、〇〇〇円也

四、起債総額 金九〇、〇〇〇、〇〇〇円也

二十五年均等償還（内五年据置）

五、入札の方法 指名競争入札、但し予定価格に達しない場合は、随意契約とする。

六、着工予定年月日 昭和四十年四月一日

七、竣功予定年月日 昭和四十三年三月三十一日

昭和三十九年九月二十一日提出

矢吹町長 大木代吉

矢吹町上水道布設事業費継続年期及び支出方法について

矢吹町上水道布設事業費継続年期及び支出方法について下記のとおり定めるものとする。

記

自昭和四十二年年度分

矢吹町上水道布設事業費継続年期及び支出

方法書

年度	支出額	説明	財源	説明	備考
昭和四十年年度	三、五、〇〇〇、〇〇〇	工事費	起債	財源一般	計
昭和四十一年年度	三、五、〇〇〇、〇〇〇	事業費	起債	財源一般	計
昭和四十二年年度	三、五、〇〇〇、〇〇〇	事業費	起債	財源一般	計
昭和四十三年年度	三、五、〇〇〇、〇〇〇	事業費	起債	財源一般	計
計	一〇五、〇〇〇、〇〇〇				

昭和三十九年九月二十一日提出

矢吹町長 大木代吉

〔町有 昭39「矢吹町会議録」抜粋〕

四九〇〔昭和三十九年上水道建設特別委員会設置〕

議案第四十八号

矢吹町上水道建設調査特別委員会設置について

地方自治法第一一〇条及び矢吹町議会委員会条例第三条の規定により次のとおり設置するものとする。

矢吹町上水道建設に伴う調査研究を目的として委員十一名をもって組織し昭和三十九年度より建設工事終了年度までとする。

昭和三十九年九月二十一日提出

矢吹町議会議長 富 永 栄太郎

委員 富 永 栄太郎 佐久間 伊佐三 大沼 力雄

吉田 義 正 内 藤 武 雄 井戸沼 俊 頼

鈴木 チヨ 須 藤 卓 司 遠 藤 竜 三

木 戸 安太郎 渡 辺 誠

〔町有 昭39「矢吹町会議録」抜粋〕

四九一〔昭和四〇年上水道工事〕

議案第三十号

工事請負契約の締結について

上水道建設工事の請負について、矢吹町議会の議決に付すべき契約及び財産の取得又は処分に関する条例（昭和三十九年矢吹町条例第十二号）第二条の規定に基づき次のとおり契約を締結する

ものとする。

記

一、工 事 名 矢吹町上水道新設工事

二、工 事 場 所 矢吹町大字矢吹同中畑新田同大和久地内

三、工事の概要

(1) 水源施設 深井戸 一二〇メートル 三井

(2) 送水施設 送水管延長 二、六〇四・三メートル
(口経二〇〇ミリ〜三〇〇ミリ)

(3) 浄水施設 滅菌機 二基

(4) 配水施設

ア 配水地敷地造成 三、九六〇平方メートル

イ 配水池築造 六〇〇立方メートル×二池Ⅱ一、二〇〇立方メートル

ウ 溢 流 排水 一式

エ 配 水 管 延長一一、八六五メートル（口経七五ミリ〜三〇〇ミリ）

エ 配 水 管 延長一一、八六五メートル（口経七五ミリ〜三〇〇ミリ）

(5) 消火施設 六一基 地下式単口

(6) 管理施設

ア 管理室築造 鉄筋ブロック平家建 一五二・二平方メートル（四八・四坪）

イ 集中管理設備 一基

イ 集中管理設備 一基

イ 集中管理設備 一基

イ 集中管理設備 一基

ウ 照 明 設 備 一 式

エ 量 水 室 築 造 一 棟 二 四 ・ 二 平 方 メ ー ト ル (七 ・ 三

坪)

(7) 道 路 復 旧 延 長 一 四、四 六 九 ・ 三 メ ー ト ル

内 県 道 砂 利 道 二、九 八 九 ・ 二 メ ー ト ル

県 道 舗 装 道 六 〇 ・ 〇 メ ー ト ル

町 道 砂 利 道 一 一、四 二 〇 ・ 一 メ ー ト ル

(8) 貫 孔 鉄 道 三 カ 所 国 道 二 カ 所

四、請 負 契 約 金 額 金 一 〇 〇、二 五 〇、〇 〇 〇 円

五、請 負 契 約 者 東 京 都 中 央 区 西 八 丁 堀 二 丁 目 一 六 番 地

神 鋼 水 道 建 設 株 式 会 社

取 締 役 社 長 花 井 嘉 夫

六、契 約 の 方 法 四 名 の 指 名 競 争 入 札

(1) 日 本 水 道 株 式 会 社

(2) 神 鋼 水 道 建 設 株 式 会 社

(3) 浅 野 工 事 株 式 会 社

(4) 大 平 建 設 工 業 株 式 会 社

昭 和 四 十 年 七 月 九 日 提 出

矢 吹 町 長 大 木 代 吉

〔町有 昭40「矢吹町会議録」抜粋〕

四九二〔昭和四十七年三城目簡易水道施行〕

議案第十九号

矢 吹 町 三 城 目 簡 易 水 道 事 業 施 行 に つ い て

矢 吹 町 三 城 目 簡 易 水 道 事 業 を 昭 和 四 十 七 年 度 事 業 と し て 次 の と お り 施 行 す る も の と す る

記

一、工 事 名 称 矢 吹 町 三 城 目 簡 易 水 道 布 設 工 事

二、給 水 区 域 矢 吹 町 大 字 三 城 目、同 神 田 の 一 部

三、入 札 方 法 指 名 競 争 入 札

昭 和 四 十 七 年 三 月 四 日 提 出

矢 吹 町 長 仲 西 藤 次

〔町有 昭47「矢吹町会議録」抜粋〕

四九三〔昭和四〇年西白河地方衛生処理一部事務組合設立〕

西 白 河 地 方 衛 生 処 理 一 部 事 務 組 合 の 設 立 に つ い て

地 方 自 治 法 第 二 百 八 十 四 条 第 一 項 の 規 定 に よ り 昭 和 四 十 一 年 四 月 一 日 か ら 白 河 市、西 郷 村、表 郷 村、東 村、泉 崎 村、中 島 村、矢 吹 町、大 信 村 と 衛 生 処 理 に 関 す る 事 務 を 共 同 処 理 す る た め 次 の と お り 規 約 を 定 め 西 白 河 地 方 衛 生 処 理 一 部 事 務 組 合 を 設 立 す る

昭 和 四 十 年 十 二 月 八 日 提 出

福 島 県 西 白 河 郡 矢 吹 町 長 大 木 代 吉

西白河地方衛生処理一部事務組合規約（案）

（組合の名称）

第一条 組合の名称は、西白河地方衛生処理一部事務組合

（以下「組合」という）という。

（組合を組織する市町村）

第二条 組合は、白河市、西郷村、表郷村、東村、泉崎村、

中島村、矢吹町、大信村を以って組織する。

（組合の共同処理する事務）

第三条 組合は、し尿消化槽を設置してこれが維持運営を行

ない、し尿処理事務を共同処理する。

（組合事務所の位置）

第四条 組合事務所の位置は、白河市中町三十六番地白河市

役所内におく。

（組合の議会）

第五条 組合議員の定数は十六人としつぎの者をもって組織

する。

（一）組合市町村の長及び議会議長

（三）管理者及び副管理者を選任された組合市町村にあっては、議会議員のうちから選挙された議員一名をもってこれにあてる。

（議員の任期）

第六条 組合の議員の任期はその市町村の長及び議会の議長

並びに議会議員の任期による。

（議員の移動）

第七条 組合市町村の長は組合議会の議員が定まったとき、

または議員に異動を生じたときは直ちに管理者に通知しなければならない。

（議会の組織及び選任方法）

第八条 組合議会は議員のうちから、議長及び副議長一名を

選挙しなければならない。

（一）議長及び副議長の任期は議員の任期による。

第九条 議長に事故あるとき又は議長が欠けたときは副議長

が議長の職務を行なう。

（二）議長及び副議長とも事故あるとき又は欠けたときは

仮議長を選挙し議長の職務を行なわせる。

（三）前項の規定により選挙を行なう場合において、議長
の職務を行なう者がいないときは、年長の議員が臨時
に議長の職務を行なう。

（執行機関の組織及び選任方法）

第十条 組合に管理者及び副管理者二名をおく。

（二）管理者は白河市長を以ってこれに充て、副管理者は
西白河地方町村会長及び西白河地方町村会副会長の職

にあるものを以ってこれに充てる。

第十一条 組合に収入役一人をおく。

(二) 収入役は白河市の収入役を以ってこれに充てる。

第十二条 前二条に定めるものを除くほか、組合に吏員その他の職員をおく。

(二) 前項の職員は管理者がこれを任免する。

(三) 第一項の職員の定数は条例でこれを定める。

第十三条 組合に監査委員二名をおく。

(二) 監査委員は管理者が組合議会の同意を得て組合議会の議員及び学識経験を有するものの中から各々同数を選出する。

(三) 監査委員の任期は議員のうちから選任されたものにあつては議員の任期によるものとし、学識経験を有するものから選任された者にあつては三年とする。但し後任者が選任されるまでの間はその職務を行なう。

(経費の支弁方法)

第十四条 組合の経費は組合財産から生ずる収入を以ってこれにあて、不足があるときは組合議会の議決を経て第二条に規定する市町村において分賦する。

(二) 前項の分賦率はずきのとおりとする。

人 口 割 三〇%

特掃地域人口割 七〇%

附則 この規約は福島県知事の許可のあった日から施行する。

(二) この規約第十四条第二項の規定は昭和四十三年四月一日より施行する。

〔町有 昭40「矢吹町会議録」抜粋〕

四九四 〔昭和四五年西白河地方一部事務組合ゴミ処理開始〕

昭和四五年度事務報告

清掃関係

昭和四十五年四月一日から西白河地方一部事務組合によりゴミの収集が西白河郡内を巡回しはじめられた。

矢吹町においては月、水、金曜日は燃焼物を木曜日は不燃焼物を又中畑、三神については不燃焼物については部落の要望があれば巡回して収集し燃焼物については中畑は水曜日に茨城街道沿を元中畑中学校まで三神は石川街道沿を神田まわり三城目根岸地区まで収集しゴミを衛生的に処理し明るく住みよい町づくりにつとめた。

〔町有 昭46「矢吹町会議録」抜粋〕

(3) 環 境

四九五〔昭和二十八年町営火葬場建築工事施行〕

議案第二十一号

矢吹町営矢吹火葬場建築工事施工の件

右建築工事次の通り施行するものとする

昭和二十八年三月十二日提出

矢吹町長 大木代吉

一、建築を必要とする理由

本町は西白河郡唯一の町として白河市に次ぐ文化の中心となつて居る関係上町内は勿論対外的にも諸機関の施設や事業完備の要に迫られ小中学校社会事業消防施設の充実を始め公民館高校分校等々整備し全国大規模国営の開拓事業の推進につれ住民の数も増加の一途をたどり都市計画の編入地区に指定せられましたので近き将来は往時の面目態様を一新せんとする時に際し従来火葬場は町有林野の中にその都度露天に於て行われ防火の見地からも人道上誠に見るに忍び得ざる現状であり完備せる近い火葬場としては何れも白河市、須賀川、石川町に求める外なく町の中心たる西側と大林の新旧墓地も殆んど空地なく後数年にして使用不可能となることを予想せられ現在完備した火葬場が無いので同一墓地の使用を繰り返して居るは町民の等しく

遺憾とする処でありこの際急速に町営火葬場を新しく設立し町内は勿論近郷町村住民の要望に応えんとする。

二、名称及び構造

(1) 矢吹町営矢吹火葬場

(2) 木造スレート葺平屋建延七十坪

内

火葬場 三十六坪

事務室管理人住宅 二十坪

薪小屋 十四坪

三、工事費及その財源

1 工事費 三百二十二万九千円

内訳

(1) 火葬炉上家工事費	九七二、〇〇〇円
(2) 事務室待合室管理人住宅	四八〇、〇〇〇円
(3) 薪小屋	一六八、〇〇〇円
(4) 整地費	六〇、〇〇〇円
(5) 火葬炉一式	七五四、〇〇〇円
(6) 電灯施設工事	五〇、〇〇〇円
(7) 井戸及雑工事費	二〇〇、〇〇〇円
(8) 敷地買収費	七五、〇〇〇円
(9) 道路工事費	四〇〇、〇〇〇円

(10) 其の他 七〇、〇〇〇円

2 財 源 大蔵省預金部より借入金三百二十二万九千円

四、工事施行の時期 昭和二十八年年度

五、工事施行の方法 競争入札随意契約

附帯決議

1 起債の見通し確実の場合に限り着工する 以上

〔町有 昭28「矢吹町会議録」抜粋〕

四九六〔昭和四三年町営火葬場条例〕

矢吹町営火葬場条例

(設置)

第一 条 地方自治法（昭和二十二年法律第六十七号）第二四

四条第一項の規定に基づき、住民の宗教的感情に適合し、且つ公衆衛生その他公共の福祉の見地から火葬場を設置する。

(名称、位置及び火葬炉)

第二 条 火葬場の名称、位置及び火葬炉は別文のとおりとする。

(委任)

第三 条 この条例に定めるもののほか火葬場の管理及び運営に関して必要な事項は、法令に別段の定めがある場合

を除き町長が定める。

附則 この条例は、公布の日から施行する。

別表

名 称	位 置	火葬炉
矢吹町営火葬場	矢吹町大字大和久字岩崎二三番地二	二基

〔町有 昭43「矢吹町会議録」抜粋〕

四九七〔昭和四四年町営墓地条例〕

矢吹町町営墓地条例

(設置)

第一 条 地方自治法（昭和二十二年法律第六十七号）第二四四条及び墓地、埋葬等に関する法律（昭和二十三年法律第四八号）第一条の規定に基づき墓地を設置経営する。

(名称、位置)

第二 条 墓地の名称、位置は別表のとおりとする。

(委任)

第三 条 この条例に定めるもののほか墓地の管理及び運営に関して必要な事項は法令に特別の定めがあるものを除き町長が定める。

附則 この条例は、墓地埋葬等に関する法律第十条に基づく福島

県知事の許可があった日

矢吹町町営墓地貸付料条例

(貸付料)

第一条 矢吹町町営墓地の使用についてはこの条例の定めるところにより貸付料を納めなければならない。

(貸付料の額)

第二条 矢吹町町営墓地貸付料(以下「貸付料」という。)は一基につき金四万円以内とする。

二 町外居住者に対する貸付料は前項の額の五割増とする。

(貸付料の不還付)

第三条 既納の貸付料は還付しない。

(委任)

第四条 この条例に定めるもののほか、貸付料の納入その他必要事項は町長が定める。

附則 この条例は矢吹町町営墓地条例施行の日から施行する。

〔町有 昭44「矢吹町会議録」抜粋〕

四九八〔昭和四三年町営と場条例〕

議案第十四号

矢吹町と場条例

矢吹町と場条例を次のように制定するものとする。

昭和四三年三月二日提出

矢吹町長 大 木 代 吉

矢吹町と場条例

(設置)

第一条 地方自治法(昭和二年法律第六七号)第二四四条

第一項及びと畜場法(昭和二八年法律第一一四号)第

三条の規定に基づき食用に供するために行う獣畜の処理の適正を図り、もって公衆衛生の向上及び増進に寄与するため、と畜場を設置する。

(名称、位置)

第二条 と場の名称、位置は、別表のとおりとする。

(委任)

第三条 この条例に定めるもののほかと場の管理及び運営に關して必要な事項は、法令に別段の定めがある場合を除き町長が定める。

附則 この条例は、公布の日から施行する。

別表

名 称	位 置
矢吹町と場	矢吹町大字大和久字岩崎二六番地

(注) 昭和四十七年三月同条例は廃止されている。

〔町有 昭43「矢吹町会議録」抜粋〕

四九九〔昭和四五年環境保全について事務報告〕

公 害 関 係

社会発展の「ひずみ」、高度な文明は遂に公害という呼名の副産物を生んでしまいました。法律第一三二号昭和四十二年、この時期に「公害対策基本法」が誕生いたしました。当時はあまり縁の無いものであったのかも知れませんが、然しながら昨今吾福島県においても「会津のカドミ」「小名浜のシアン」と各地に有害な物質が検出され始めました。公害に関する環境基準、物質の規制基準と、許容限度こそあるにせよ、等しく住民の健康保全を守らねばなりません。だからこそこの法律の基本となるものは「個人の尊重と公共の福祉」「生存権及び国民生活の社会的進歩向上に努める国の義務」とされたのでありましょう。これ等の精神を背景として「福島県公害防止条例」が出来たのであります。矢吹町も昨年公害紛争の事実を認めるに至り、今日又、多少の問題を提起こ

れの適切な指導に一日を費のであります。ご承知のとおり公害の定義は難解なものでもあり、且又種類も非常に複雑多岐なるものであります。

どのような方法をもって公害を未然に防止する事が出来ましようか。産業公害、住民生活からの一般公害とこれを指導する「決め手」が困難でもあるのです。

皆さん一緒に環境保全に努力しましょう。

〔町有 昭46「矢吹町会議録」抜粋〕

五〇〇〔昭和四七年度公害対策〕

公 害 対 策

本町への企業進出、或は工場の増設等が活発に行なわれつつありますが、それと同時に企業による公害発生のおそれも多分に考えられることである。

工場による公害は発生してからでは遅いため、工場の設置或は増設前に町で調査し、或は事業主と協議し公害のない工場の発展に寄与して行くべきと考える。又、町民の事業による公害(家畜による悪臭等)についても当然取り組むべきであると考え矢吹町公害防止条例を制定し、国・県の施策と相まって町としても公害防止に力を注ぐこととした。

公害紛争等の諮問機関として、公害対策審議会を設置した。

五〇一「昭和四十七年矢吹町公害防止条例」

矢吹町公害防止条例

（目的）

第一条 この条例は、住民の健康で文化的な生活を確保するため法令に特別の定めがある場合を除くほか、町事業者及び住民の公害の防止に関する責務を明らかにするとともに、公害の防止に関する町の施策の基本となる事項を定めることを目的とする。

（定義）

第二条 この条例において「公害」とは、事業活動その他の人の活動に伴って生ずる相当範囲にわたる大気の汚染、水質の汚濁（水質以外の水の状態又は水底の底質が悪化することを含む。以下同じ）、土壌の汚染、騒音、振動、地盤の沈下（鉱物の掘採のための土地の掘さくによるものを除く。）及び悪臭によって、人の健康又は生活環境に係る被害が生ずることをいう。

（事業者の責務）

第三条 事業者は、その事業活動に伴って生ずるばい煙、汚水、廃棄物等の処理等公害を防止するために必要な措

置を講じなければならない。

二 事業者は、町が実施する公害の防止に関する施策に協力しなければならない。

（町の責務）

第四条 町は、国及び県の公害の防止に関する施策とあいまってこの条例に規定する施策を講ずることにより、良好な生活環境を保全し、よって住民の健康及び安全を確保するものとする。

（住民の責務）

第五条 住民は、公害を発生させることのないように常に努めなければならない。

二 住民は、町が実施する公害の防止に関する施策に協力しなければならない。

（公害の防止に関する施策）

第六条 町長は、おおむね次に掲げる施策を講じ、公害の防止に努めるものとする。

- (1) 公害の状況を把握するために必要な監視及び測定に關すること。
- (2) 公害を防止するために必要な、都市施設等の整備に關すること。
- (3) 公害の防止に資するための緑地の保全。その他自

然環境の保護に関すること。

(4) 事業者が行なう公害の防止のための施設の設置、又は改善に要する資金のあつ旋その他の援助に関すること。

(5) 事業者及び住民に対する公害の防止についての啓もうに關すること。

(苦情等の処理)

第七 条 町長は、公害に係る苦情、陳情等について住民の相談に応じ、県及び関係市町村と協力し、その適切な処理に努めるものとする。

(処理計画)

第八 条 町長は、事業者の事業活動により公害が発生し、又は発生するおそれがあると認めるときは、当該事業者に対し期限を定めて、公害を防止するための処理計画を作成し、及びその提出を命じることができる。

二 町長は、前項の規定により処理計画の作成及び提出を命じるときは、当該計画に記載すべき事項を示して行なわなければならない。

三 町長は、第一項の規定により処理計画の提出があつた場合において、当該計画が公害を防止するために十分な計画ではないと認めるときは、矢吹町公害対策審

議会の意見を聞いて、当該計画の変更を命じることができる。

四 町長は、前項の規定により処理計画の変更を命じようとするときは、当該事業者又はその代理人に口頭又は文書で、弁明の機会を与えなければならない。

五 町長は、事業者が第一項の規定により提出した処理計画又は第三項の規定により変更を命じられた処理計画において定めた措置を講じないときは、矢吹町公害対策審議会の意見を聞いて、当該事業者に対し期限を定めて当該計画において定めた措置の実施を命じることができる。

六 第四項の規定は、前項の規定により実施を命じようとする場合に準用する。

(緊急時の措置)

第九 条 町長は、次の各号の一に該当するときは関係事業者に対し、ばい煙又は汚水の排出量の減少について協力を求めることができる。

(1) 気象状況の影響により、大気の汚染が著しく人の健康又は生活環境をそこなうおそれがあると認めるとき。

(2) 異常な渇水その他これに準ずる事由により、水質

の汚濁が著しく人の健康又は生活環境をそこなうおそれがあると認めるとき。

二 事業者は、前項の規定により協力を求められた場合は、すみやかに、ばい煙又は汚水の排出量の減少について適切な措置を講ずるとともに、その措置の状況を町長に報告しなければならない。

(報告事項)

第十條 事業者は、次の各号に掲げる場合に該当するときは

当該各号に定める事項を、ただちに町長に報告しなければならない。

(1) その者の事業活動により公害が発生し、又は発生するおそれがあると認められるとき、その発生し又は発生するおそれがあると認められる公害の内容及び当該公害の防止のために講じようとする措置の状況

(2) その者の管理する施設について故障、破損その他の事故が発生した場合において、当該事故により公害が発生し、又は発生するおそれがあると認められるとき、その事故の状況並びにその事故に対する応急の措置の内容及び復旧工事の計画

二 町長は、前号に定めるもののほか、この条例の施行

に必要な限度において、事業者に対し、公害の防止に関して必要な事項の報告を求めることができる。

(立入検査)

第十一條 町長は、この条例の施行に必要な限度において、その職員をして、公害が発生し、又は発生するおそれがあると認められる事業者の工場又は事業場に立ち入り、その施設、帳簿書類その他の物件を検査させることができる。

二 前項の規定により立ち入り検査をする職員は、その身分を示す証明書を携帯し、関係人にこれを提示しなければならない。

三 第一項の規定による立入検査の権限は、犯罪捜査のために認められたものと解してはならない。

(公害対策審議会)

第十二條 町長の附属機関として、矢吹町公害対策審議会（以下「審議会」という。）をおく。

二 審議会は、町長の諮問に応じ、次に掲げる事項を調査審議する。

(1) 公害対策に関する基本的事項

(2) 第八條第三項及び第五項に規定によりその権限に

属させられた事項

(3) 特に重要と認める公害に係る苦情等の処理に関する事項

三 審議会は、委員十人以内で組織する。

四 委員は、公害の防止に関し、学識経験のある者のうちから町長が任命する。

五 前二項に定めるもののほか、審議会の組織及び運営に関して必要な事項は規則で定める。

(規則への委任)

第十三条 この条例に定めるもののほか、この条例の施行に関して必要な事項は規則で定める。

(罰則)

第十四条 第八条第五項の規定による命令に違反した者は、五〇、〇〇〇円以下の罰金に処する。

二 第八条第一項の規定による命令に違反した者は三〇、〇〇〇円以下の罰金に処する。

第十五条 次の各号の一に該当する率は、一〇、〇〇〇円以下の罰金に処する。

(1) 第十条第二項の規定による報告をせず、又は虚偽の報告をした者

(2) 第十一条第一項の規定による検査を拒み、妨げ、又は忌避した者

第十六条 法人の代表者又は法人若しくは人の代理人、使用人

その他の従業者が、その法人又は人の業務に関し、前二条の違反行為をしたときは、行為者を罰するほか、その法人又は人に対して各本条の罰金刑を科する。

附 則

この条例は、公布の日から施行する。

〔町有 昭47「矢吹町会議録」抜粋〕

五〇二〔昭和四七年度自然環境保全について〕

(1) 自然環境保全

我が町の自然環境は町民の生存の基礎であり、生活の源泉であるが、近年この自然環境が、無秩序な開発等によって損壊されることも予想されるので、自然環境保全法、県で制定した自然環境保全条例の趣旨を理解し、自然保護を進める方策の検討に入った。

〔町有 昭48「矢吹町会議録」抜粋〕

五〇三〔昭和四九年自然環境保全地域県指定〕

四十九環保第五十三号

昭和四十九年二月八日

福島県生活環境部長印

矢吹町長殿

福島県自然環境保全条例に基づく保全

地域の指定について

このことについては昭和四十九年二月七日に開催された福島県自然環境保全審議会自然環境保全部会において別添のとおり答申を得ましたので通知いたします。

なお答申に基づき、近日中に公告の手続を行ないますのでご承知願います。

五本松 自然環境保全地域に関する保全計画

一、自然環境の特質及び自然環境の保全に関する基本的な事項

(1) 自然環境の特質

矢吹町と泉崎村にまたがる旧国道四号線（陸羽街道）沿の松並木である。

道路の両側に樹勢の良い樹齢一五〇～一七〇年に及ぶアカマツが、二五〇本、七〇〇メートルにわたり生育しており、すぐれた景観を呈している。並木としての生態上また文化的社会的資産としての価値が高い。

(2) 自然環境の保全に関する基本的な事項

ア 保全地域の位置、区域及び面積

位置 西白河郡矢吹町大字大和久字赤沢地内

西白河郡泉崎村大字踏瀬地内

区域 別添 区域図のとおりとする

面積 一・二ヘクタール（含泉崎）

イ 保全に関する基本方針

並木としての生態がすぐれ、かつ、文化的社会的資産としての価値が高いので、並木の保存に支障を及ぼすような行為は、規制するものとする。

二、特別地区

当該保全地域の区域に特別地域を指定する。

位置 西白河郡矢吹町大字大和久字赤沢地内

西白河郡泉崎村大字踏瀬地内

面積 〇・七ヘクタール

三、保全施設

1 保護棚 六箇所

2 標識類 六基

恩賜林自然環境保全地域に関する保全計画

一、自然環境の特質及び自然環境の保全に関する基本的な事項

(1) 自然環境の特質

矢吹町中央部の平坦な耕地の中にある樹林地で、県道矢吹

・石川線の南西に近接している。

平地の中に孤立した、アカマツを主とする自然性の高い樹林であり、アカマツの密度が高く、かつその樹勢がよく景観はすぐれている。

また野鳥の生息地となっており、カシラダカ、キジバト、カワラヒワ、ムクドリ等が数多く生息している。

(2) 自然環境の保全に関する基本的な事項

ア 保全地域の位置、区域及び面積

位置 西白河郡矢吹町大字中畑字文京町地内

区域 別添区域図のとおりとする。

面積 七・八ヘクタール

イ 保全に関する基本方針

平地の中に自然性の高い状態で残されている樹林地として貴重であり、人為による破壊から厳正に保全するものとする。

二、特別地区

当該保全地域の区域に特別地区を指定する。

位置 西白河郡矢吹町大字中畑字文京町

区域 別添区域図のとおりとする。

面積 五・九ヘクタール

三、保全施設

- 1 給餌施設 五箇所
- 2 標識類 六基

〔矢吹町役場保健課文書〕

五〇四〔昭和五十一年保安林（公衆の保健）の県指定〕

五十一森第六十八号

昭和五十一年七月十日

福島県知事 木村 守 江 岡

矢吹町長殿

保安林の指定について

貴町内の下記森林は保安林に指定され、昭和五十一年七月九日福島県告示第九八五号でその旨告示されたから御承知の上、関係書類を一般の縦覧に供するようお願いします。

なお、本指定により地方税法第三四八条による固定資産税の課税関係に変動を生ずるので念のため申しそえます。

記

指定予定保安林の所在場所	地番	全 面 積		指定する保安林と目的	所有者
		台調ha	見込面積		
西白河郡矢吹町大字須乗字諏訪の前	二六	三・六八三	三・六八三	公衆の保健	福島県
〃	二七ノ一	一〇・二四九	一〇・二四九	〃	諏訪神社

諏訪山保健保安林の概要

所在地 矢吹町大字須乗字諏訪の前

面積

植生の概説

一ヘクタールというわずかの面積のところに樹令数百年かと思われる大樹の群落があるのは、県下にもその例を見ないと思われる(特に海拔二〇〇メートル程度の平地において)

構成種は次の通り、() は胸高直径であり、単位 cm

コナラ(九〇)、ハリギリ(七五)、イヌシデ(五五)、コブシ(五〇)、クマシデ(五〇)、ケヤキ(五〇)、ヤマモミジ(三〇)、ヤマザクラ(二〇)、ウワミズザクラ、アオハダ、^(ホオノキ)ホウ、ミズキ、ウリカエデ、クロモジ、クリ、ガマズミ、ヤマウルシ、オトコヨウゾメ、ノイバラ、ウグイスカグラ、イヌザンショウ、サルトリイバラ、^(コヤユミ、ニシキギ)コニシキギ、クロツバラ、ツリバナ、ムラサキシキブ、ヤマウコギ、ヨツバハギ、ヤマフジ

下草として、特にシデ林の北東部には、ヤマフジ、イヌドウナの群生がある。

その他、クズ、ヒカゲスゲ、シュンラン、チジミザサ、ヌスビトハギ、ノダケ、ギンリョウソウ、キズタ、イワガラミ、ヤブレガサ、イタドリ、ホトトギス、ツルニンジン、ギンラン、ヤマガシユウ、ヨツバハギ、ギボウシ、チゴユリ、ワラビ、アケビ、フ

キ

植生図 (略)

野生動物及びその生息状態の概説

鳥類 ヒヨドリ、シジュウカラ、カラス、キジバト、モズ、ツバメ

昆虫類

ルリイトトンボ、アキアカネ、ノシメトンボ、ヒカゲチヨウ、クロヒカゲ、イヌモンジセセリ、オオチャバネセセリ、スジグロチヨウ、モンシロチヨウ、イナゴ、エンマコオロギ、ツマグロヨコバイ、クロウリハムシ

〔矢吹町役場保健課文書〕

五〇五 [昭和四五年以降公害発生件数]

公害苦情処理原因別件数

年度	原因	大気汚染	水質汚濁	騒音	振動	地盤沈下	悪臭	土質汚染	その他	計
昭和四三		一								一
昭和四四		一								一
昭和四五		一								一
昭和四六		一								一
昭和四七		一								一
昭和四八		一								一
昭和四九		一								一
昭和五〇		一								一
昭和五一		一								一
昭和五二		一								一
昭和五三		一								一
昭和五四		一								一
昭和五五		一								一
昭和五六		一								一
昭和五七		一								一
昭和五八		一								一
昭和五九		一								一
昭和六〇		一								一
昭和六一		一								一
昭和六二		一								一
昭和六三		一								一
昭和六四		一								一
昭和六五		一								一
昭和六六		一								一
昭和六七		一								一
昭和六八		一								一
昭和六九		一								一
昭和七〇		一								一
昭和七一		一								一
昭和七二		一								一
昭和七三		一								一
昭和七四		一								一
昭和七五		一								一
昭和七六		一								一
昭和七七		一								一
昭和七八		一								一
昭和七九		一								一
昭和八〇		一								一
昭和八一		一								一
昭和八二		一								一
昭和八三		一								一
昭和八四		一								一
昭和八五		一								一
昭和八六		一								一
昭和八七		一								一
昭和八八		一								一
昭和八九		一								一
昭和九〇		一								一
昭和九一		一								一
昭和九二		一								一
昭和九三		一								一
昭和九四		一								一
昭和九五		一								一
昭和九六		一								一
昭和九七		一								一
昭和九八		一								一
昭和九九		一								一
昭和〇〇		一								一

(注) 矢吹町役場担当係処理件数のみ

[昭45・46・47 事務報告・生活環境係調]

五〇六〔昭和五十二年環境水質測定集計〕

(はじめに)

昭和四十七年に、町民の健康で文化的な生活を確保するため、町公害防止条例が制定されてから六年、そして公害事務が住民課主管となつてから四年が経過し、その間各種監視測定機器の整備充実がなされ、汚染要因を解明するための諸施策を実施してきたが、今回はその一つとして、水質測定結果をまとめてみました。

「さわやかな田園都市」を目ざす資料として役立てば幸いです。

昭和五十三年二月

矢吹町役場住民課

(環境水質測定結果集計)

これは、昭和五十一年度から昭和五十二年度までの二ケ年間の四河川、二池沼(農業用水溜池)の六水系、十四測点の測定集計である。(但し、測定項目は、測定機器の整備状況により漸次付加されて来たものであること。)

一、総 計

	限戸川	泉 川	阿武隈川	阿由里川	小 池	大 池
P H	七・三	七・一	七・四	七・〇	七・三	七・九
C O D	二・五	二・三	二・五	二・〇	一〇・三	二・七
D O	一・五	一・三	一・五	一・〇	一〇・三	二・七
S S	一・五	一・三	一・五	一・〇	一〇・三	二・七
濁 度	七・五	四・〇	四・〇	六・〇	六・〇	一・五
温 度	一七・〇	一六・〇	二〇・〇	一七・〇	二〇・〇	一九・〇
O R P	一七・〇	一六・〇	二〇・〇	一七・〇	二〇・〇	一九・〇

(PH) 全体的に良い状態であると考えるが大池が少し高い。

(DO) いずれも問題とはならない。

(濁度) 大池が高いのは養漁に起因するものと考える。

(ORP) 全体的に酸化反応生成物の存在を示している。これから判断すると阿武隈川は他の河川より反応が高い。

二、水系別集計(略)

〔矢吹町保健課資料抜粋〕

(注) PH(水素イオン濃度) 水の酸分とアルカリ分を表わすもので、PH7を中性、それより数値が大きければアルカリ性、小さければ酸性という。公共用水域の水質環境基準では、河川、湖沼が六・〇～八・五 海域が七・〇～八・三となっている。

COD(化学的酸素要求量) 水中の汚物を化学的に酸化して無害なものにするために必要な酸化剤に対応する酸素の量で、この数値が小さいほど汚染は少ないと考えてよい。

DO(溶存酸素) 水中に溶けている酸素の量で魚の生息

には最低5ppmのDOが必要とされている。

SS（浮遊物質） 粒径2ミリ以下で水に溶けないで浮遊している物質で魚介類に付着したり、川底に沈積して流れを悪くしたり腐敗したりする。

ORP（酸化還元電位） 酸化反応生成物の存在を示す。

4 災害・救済

五〇七〔昭和二年水害復旧工事〕

議案第四十五号

災害復旧工事施行の件

昭和二十二年九月十五・十六日の水害により左記箇所の橋梁流失したから之が復旧工事を施行するものとする。

昭和二十二年十月十日提出同日議決

矢吹町長 仲 西 正 次

記

一 矢吹町大字大和久字行人田地内

雷 神 橋

〔町有 昭22「矢吹町会議録」抜粋〕

五〇八〔昭和二年大和久村大火状況と罹災者救済〕

発 火 昭和二十三年五月二十五日午後十一時三十分

火 元 （放火に依る）

類 焼 戸 数 十三戸

世 帯 主 十八戸

罹 災 人 員 約一二〇人

損 害 見 積 約二百八十万円

出 場 人 員 約五〇〇人

出 動 ポ ン プ 数 十五台

応援消防団名 三神、川崎、信夫、滑津、吉子川、関平、中畑、

小田川、白河、須賀川、鏡石、広戸

議案第二十六号

大和久村大火罹災者救済の件

昭和二十三年五月二十五日本町大字大和久地内に発生した大火に依り多数の罹災者発生したので救済するものとする

昭和二十三年五月二十六日提出同日議決

矢吹町長 仲 西 正 次

決定事項

一、見舞金贈呈 一戸につき金千円十九戸分 一万九千円
二、食料、肥料、衣料、建築資材の配給に付万全を期する様手配すること

〔町有 昭23「矢吹町会議録」抜粋〕